

# ひまわり

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

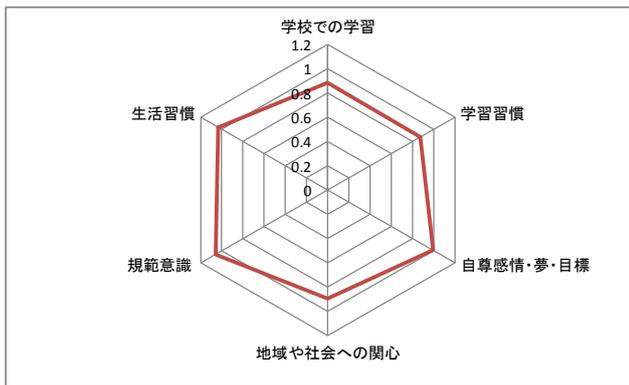
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

| 教科・区分 | 学力調査の分析(傾向や特徴)   | 全国平均正答率との比較 |
|-------|--|-------------|
| 国語A   | ・昨年度に比べて、正答率が上がり、全国平均正答率と同程度であった。<br>・無解答率がなく、どの問題にも根気よく取り組んでいる。<br>・言語についての知識・理解・技能における正答率が高かった。                        | 同程度である      |
| 国語B   | ・昨年度に比べて、正答率が上がり、全国平均正答率と同程度であった。<br>・読む能力を問う問題の正答率が全国平均正答率と比べて低かった。<br>・無解答率がどの問題も全国と比べて低かった。                           | 同程度である      |
| 算数A   | ・昨年度に比べて、正答率が上がり、全国平均正答率と同程度であった。<br>・数量や図形についての知識・理解を問う問題の正答率が全国と比べて低かった。<br>・無解答率が比較的、どの問題にも根気よく取り組んでいる。               | 同程度である      |
| 算数B   | ・昨年度に比べて、正答率が上がり、全国平均正答率と同程度であった。<br>・数学的な考え方を問う問題の正答率が全国平均正答率と比べて、高かった。<br>・示された考えを理解して、数量の関係を考察して式で表す問題の正答率が高かった。      | 同程度である      |
| 理科    | ・自然現象への関心・意欲・態度の正答率は全国平均正答率と比べて高かった。<br>・科学的な思考・表現に関する問題の正答率が、全国平均正答率と比べて高かった。<br>・実験結果を基に分析して、考察したことを記述式で書く問題の正答率が低かった。 | 上回っている      |

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- ・「学校のきまりを守っている」「家で学校の宿題をしている」「人の役に立つ 人になりたい」という項目において、ほぼ全ての児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。積極的な生徒指導を通じた実践が規範意識の向上につながっている。
- ・食事や就寝に関する項目においても、ほぼ全ての児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。生活習慣に関する良好な態度が身に付いている。
- ・地域の行事への参加や社会での問題や出来事への関心が全国平均と比べて低い。読書指導も含めて、新聞等などを利用した教育(NIE)が考えられる。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・数量や図形などの基礎的・基本的な知識・技能の指導と習得、習熟に取り組む。
- ・問題形式では、記述式の問題での無解答率が高かった。課題に対して自ら考え、調べ、発表するなどの学習活動を積極的に取り入れる。その際、自分の考えと友だちの考えを比較していくことを通して、自分の考えをノートに書いたり、発表(ペア、全体)などの交流を必ず1時間の中で行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の時間が全国平均と比べて低い。したがって、宿題や自主学習について「方法・内容」を学年・学校で話し合い、家庭に向けて発信していく。
- ・「生活がんばりカード」を月1回実施する。児童・保護者が「ふり返りカード」を通して、「学校・家庭」での生活を一緒にふり返る手立てとする。